

二本松
あだたらロータリークラブ
週報 第4号

第1472回 令和8年7月30日 例会場／二本松商工会議所

持続可能な
インパクトを
生み出そう2026-2027年度
国際ロータリーのテーマ会 長 橋本 哲弥 副会長 菅野 守芳 クラブ会報委員会
会長エレクト 飯田美恵子 幹 事 吉田 豪

会長あいさつ

会長 橋本 哲弥



挑戦が歴史を変える

皆さん、こんにちは。
本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず最初に、熊本県で発生した最大震度7の地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

実は、私たちの小学生ソフトボール

チームも昨日、鹿児島で開催される全国大会へ向けて出発しました。地震の影響で九州新幹線が一部運転を見合わせるなど、子どもたちの移動にも影響が出ました。改めて、普段当たり前だと思っている「目的地へ無事に行けること」や、「仲間と一緒にスポーツができること」が、決して当たり前ではないことを実感しました。子どもたちには、全国大会という大きな舞台に立てることへの感謝を忘れず、一試合一試合を大切に、仲間と力を合わせて頑張ってきてほしいと思っています。私も、この例会が終わり次第、鹿児島へ向かう予定です。子どもたちが持てる力を十分に発揮し、悔いのない大会になるよう、精一杯応援してまいります。

そんな中、福島県には大変うれしいニュースもありました。東日本国際大学附属昌平高校が、悲願の夏の甲子園初出場を決めました。多くの方が、「今年も聖光学院だろう」と思っていたのではないのでしょうか。今年の福島大会は、「勝ち続けることの難しさ」と、「挑戦することの尊さ」を改めて感じさせてくれる大会だったと思います。高校野球は3年で選手が入れ替わります。それにもかかわらず、毎年結果を出し続けることは決して簡単なことではありません。

日々の練習への姿勢、考える力、チームワーク、そして先輩から後輩へ受け継がれる伝統があるからこそ、強いチームであり続けることができるのだと思います。

一方で、東日大昌平高校は、その大きな壁に果敢に挑み、準決勝で聖光学院を破り、決勝も勝ち抜いて、福島県高校野球の新しい歴史をつくりました。

さらに、あまり知られていないことですが、東日大昌平高校のベンチ入り20人のうち、9人が福島県内出身、11人が県外出身の選手です。出身地は違っても、それぞれが自分の役割を果たし、お互いを信頼し、一つのチームとなって甲子園への切符をつかみ取りました。これは高校野球だけの話ではありません。会社でも、ロータリーでも、スポーツでも、一人の力だけで大きな成果を上げることはできません。それぞれが自分の役割を果たし、仲間を信じ、力を合わせることで、大きな目標を達成することができます。

現状に満足せず、一步踏み出す勇気を持つこと。挑戦を続けること。その積み重ねが、新しい歴史をつくっていくのだと思います。

私たちもロータリー活動や仕事、地域への奉仕活動の中で、新しいことに挑戦する気持ちを忘れず、一步ずつ前へ進んでいきたいものです。

東日本国際大学附属昌平高校には、福島県代表として甲子園で思い切りプレーし、多くの感動を届けていただきたいと思います。そして、私たち「ゆいスポーツ少年団」も、全国大会という素晴らしい舞台で福島県代表として胸を張って戦い、一生の思い出に残る大会にできるよう頑張っています。

ご清聴、誠にありがとうございました。

本日のプログラム

会員スピーチ 九頭見武彦会員

8月のプログラム

第1472回例会：7月30日(木)／会員スピーチ 菅野守芳会員

第1473回例会：8月6日(木)／会員スピーチ 渡邊 覚会員

8月13日(木)／休会

第1474回例会：8月20日(木)／納涼会

和風寿し居酒屋ゆたか

第1475回例会：8月27日(木)／ゲストスピーチ

幹事報告

RLI第9期パートI開催のご案内

日時 令和8年8月23日(日)
9:00～16:30(8:30登録開始)

場所 郡山ユラックス熱海

●国際ロータリークラブ会長

オンラインカ・ハキーム・ババロラ(ナイジェリア)

●国際ロータリー第2530地区ガバナー

金田 昇(白河西ロータリークラブ)

●県北第一分区ガバナー補佐

内藤哲太郎(二本松ロータリークラブ)

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 一、真実かどうか
- 二、みんなに公平か
- 三、好意と友情を深めるか
- 四、みんなの為になるかどうか

創 立 1993.6.30

承 認 1993.9.10

認証状伝達式 1993.11.8

地 区 番 号 2530

ク ラ ブ 番 号 29750

例 会 日 毎週木曜日(12:30～13:30)

例 会 場 二本松商工会議所

事 務 局 〒964-0917

福島県二本松市本町 1-60-1

二本松商工会議所

Tel0243-23-3211

Fax0243-23-6677



会員スピーチ

九頭見武彦会員

本日 急遽、会員スピーチを行うようになりました九頭見武彦です。

先日、発生しました熊本地震に際しまして、お亡くなりになりました方には、ご冥福をお祈り申し上げ、被災されました方には、心よりお見舞い申し上げます。

まず、ゴルフの話をします。先日、二本松市民ゴルフ大会に参加いたしました。結果は最下位ブービーメーカーでした。なかなか上達しなく、心が折れること多々あります。でも、ゴルフを通して、いろいろな方とお知り合いになり、コミュニケーションがとれて、楽しいひと時がおくれる、なんとすばらしいことでしょう。ゴルフは自分との闘いと思って、これからも楽しんでプレーしていきたいと思います。

次に、私は、前、LPガスを販売しておりました。先日の熊本イオンのガス爆発事故、6年前の7月30日郡山市の飲食店のガス爆発事故は、凄まじいガスの破壊力の事故でした。昔は、このような事故例はあまりなかった

とおもいます。災害に強く、マイコンメーターなどの普及により、安全な熱源でしたが、原因解明と今後の安全対策が急がれること、強く願います。

最後に米屋です。コメの話をします。ちょっと前、コメが足りなくなりました。2023年、高温障害などにより、コメの品質低下、収量の低下がおき、2024年南海トラフ地震注意情報発令により、コメの買い占めがおこり、この年の秋ごろからコメ不足がさがられました。しかし一転今は、コメ余りが起きております。これは、コメ農家がコメを主食用に栽培し、商社が輸入米を仕入れし、2025年コメの買い入れ価格、販売価格が高騰し、コメの消費がだいぶ落ち込みました。それによってここ10年で民間在庫が過去最高水準になってしまいました。2026年産の価格が、これから問題になってくるとおもわれます。

美味しいコメは、水田の土の質、肥料が影響し、なんといってもコメ農家の手入れが大きなかぎにぎっています。最後に、食糧自給率をあげていかないとこれから先、日本はたいへんなことがまっているかもしれません。

ニコニコ BOX

クラブ管理運営委員会／九頭見武彦

橋本哲弥会長、安部敏弘会員、阿部佳文会員、飯田美恵子会員、鎌田有樹会員、九頭見武彦会員
今野雄登会員、遠藤 優会員、坂本和広会員、遠藤 優会員、平塚与志一会員、本多勝也会員
松山健司会員、渡辺正弘会員、秋山和久会員、佐藤壮一郎会員、齋藤敏夫会員、藤井敏則会員
今野雄登会員

* 米山記念寄与者…齋藤敏夫会員

* ローター財団…飯田美恵子会員、九頭見武彦会員

◇ 皆様の善意に感謝致します。ありがとうございました。

クラブ管理運営委員会（出席委員会）九頭見武彦

会 員 数	本日出席	出 席 率	メイクアップ	修 正 率
45 名	22 名	48.8 %	18 名	88 %

ニコニコ BOX

目標額	700,000円
小 計	21,000円
累 計	110,000円